

必要なただ一つのこと

中等部宗教主任

浅原 一泰



「ありときりぎりす」の童話を思い出して下さい。楽をして怠けるきりぎりすに対して、ありは冬に備えてせっせと食糧を巢に集めます。そんなありの姿をきりぎりすは馬鹿にして見ている。ところが厳しい冬がやって来ると、何も備えていないきりぎりすは困り果てありに救いを求める。この話にはきりぎりすのような怠け者になるな、働き者のありになれというメッセージがあります。

しかし聖書には正反対に見える教えがあります。イエスをもてなすためにせわしく立ち働く姉のマルタに対して、妹のマリアの方は何もせずに座ったままじっとイエスの話を聞いている。マルタがイエスに、妹にも働くように言ってくださいと頼み込むとイエスはマルタをいさめ、マリアは良いものを選んだのだと論じます（ルカ10：38-42）。マルタがありでマリアはきりぎりすのようにも思えます。なのにイエスはマリアを良しとしました。

ただ、イエスはマリアをこう論じていました。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことに気を遣い、思い煩っている。しかし、必要なことは一つだけである」。そして「マリアは良いほうを選んだ。それを取り上げてはならない」と。先ほどの童話では、必要なただ一つのことを選んでいたのはありで、無意味に多くのことに心を乱していたのはきり

ぎりすかもしれません。ありは生きる為に必要なただ一つのことと専念していましたが、きりぎりすは今日は何をして時間をつぶそうかと、無駄なことに思い煩っていたと思うのです。

イエスの弟子の中にも落ちこぼれた者がいました。ヨハネ福音書20章に出て来るトマスです。他の弟子たちは皆、十字架の死からよみがえったイエスと出会っていたのに、トマスだけはその場にいませんでした。主は生きておられると仲間から聞かされてもトマスは納得できず、言い返します。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れなければ、私は決して信じない」(ヨハネ20:25)。他の弟子たちはありで、トマスはきりぎりすに近いかもしれません。

「自分は出来ない、無理だ」という思いを誰もが持っています。そして無難な道を選ぶようになります。トマスもそうだったでしょう。しかし「必要なただ一つのこと」に気づかせるためにイエスはトマスの前に現れ、こう言います。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい」(ヨハネ20:27)。

聖書は「トマスのようになるな」とは言いません。むしろ、疑うトマスにこそ歩み寄り、あなたの指を釘跡に当ててみろと語りかけて「必要なただ一つのこと」に気づかせるイエスを伝えるのです。きりぎりすをありへと生まれ変わらせる復活のイエスが、無理だと諦めているあなたにも歩み寄り気づかせてくれる。そんな一年でありますように。

それから、トマスに言われた。
「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。
あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。
信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

ヨハネによる福音書20章24～29節(一部抜粋)